令和6年度　事業報告　　施設名　　幼保連携型認定こども園　同朋保育園

事業年度	定員(人)			児童数(延人数)			充足率(%)		延長保育利用人数（延人数）								一時保育	園庭開放他
									30分延長		1時間延長		2時間延長		日割り		（延人数）	（延人数）
令和5年度　事業報告	85 人	1号	15 人	1,013 人	1号	172 人	1号	96 %	339	人	13	人		人	861	人	265 人	74 人
		2,3号	70 人		2,3号	841 人	2,3号	100 %										
令和6年度　事業報告	85 人	1号	15 人	1,023 人	1号	178 人	1号	99 %	527	人	9	人		人	1,069	人	120 人	57 人
		2,3号	70 人		2,3号	845 人	2,3号	101 %										
ヒヤリハット　A(危険度重)B(危険度中)C(危険度軽)				事故報告　(受診を要した件数)					要望・意見・苦情　報告									
A：　15　件　　B：30　　件　　C：　2　件				10　　件					要望：　7 件　　意見：　0　件　　苦情：　0　件									

方基法 針本人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善(A)
人権の尊重	《保育理念》 ・人は大切、子は宝 《保育方針》 ・豊かな人間性を育む。 《保育目標》 ・元気いっぱい遊ぶ子ども ・友だちいっぱいできる子ども ・挨拶きちんとできる子ども ・命大事にできる子ども ・創意工夫のできる子ども	・自然との関わり、生命尊重 ◎テーマ：「本から広がる世界」 ・異年齢児保育の実施 ・一人一人を大切にした保育 ・主体性を尊重し、個々の気持ちを受け入れる ・虐待の防止と早期発見（チェックリスト年3回） ・権利擁護の実践と研修（チェックリスト年2回）	・異年齢児保育の実施 （令和5年度より、生活の軸を異年齢児のグループに変更） ・虐待チェックリスト(4月,9月,1月実施) ・権利擁護チェックリスト(10月,3月実施) ・権利擁護研修(5月,1月実施)	・権利擁護や子どもとの向き合い方の研修を行ったり、毎月職員会議で権利擁護に繋がる項目を取り上げ、確認したりする事で、子どもへの声掛けの仕方や関わり方を見直す機会を作る事が出来た。 ・異年齢児での生活も2年目となり、昨年度よりも子どもたち一人一人と向き合い、主体性を尊重した保育を行えるようになってきている。	・毎月の会議で権利擁護に関する具体的な内容を一つずつ取り上げることで職員も振り返りやすかった。今後も継続していきたい。 ・子どもたちの意見を尊重し、遊びや行事の内容に取り入れることで、子どもたち自身から「やってみたい」という声が上がるようになっている。令和7年度は、職員の経験年数が下がるため、子どもとの向き合い方や園が大切にしている考え方等を伝える機会を増やしていきたい。
サービスの質の向上	・保育内容・質の向上を図る。 ・職員の質の向上を図る。 ・保護者との連携	・園内研修の充実 ・キャリアアップ研修の受講 ・行事や懇談会等を通して子どもの育ちを共有 ・認定こども園自主点検・自己評価リスト実施(年２回)	・キャリアアップ研修の受講 ・行事の見直し （親子で遊ぼう～Greenマルシェ～・フェスティバル・カーニバル） ・園内研修の充実 ・年度末に保護者へのアンケート実施 ・リスクマネジメントの強化 （ヒヤリハット会議：月1回）	・新しく親子で遊ぼう～Greenマルシェ～というイベントを行った。親子で触れ合ったり、他クラスの保護者とも交流を行ったりする事が出来た。父母の会の方を中心にイベントのお手伝いをして下さる機会もあり、園と保護者が密に関わり、園理解に繋がるきっかけとなった。	・父母の会を中心に保護者の方が一緒に園行事を盛り上げて下さる機会が増えてきている。その機会を通して、保育内容について理解して頂いたり、利用の満足度に繋げたりすることができるよう、職員一同意識していきたい。 ・令和8年度に第三者評価を受ける為、令和7年度は職員全員で園について理解を深める機会を作り、保育内容、質の向上に努めたい。
地域との共生	・地域に開かれた施設づくりを目指す。 ・多様な主体の連携・協力 ・地域との共同	・子育て広場（年４８回）心理士による育児相談（月１回） ・園庭開放（月２回）・地域の方を招いての交流会（年１回） ・児童館への出前保育実施（年3回） ・５歳児と小学校１年生の交流会（年１回） ・小学生の園行事への参加（１年生、４年生、６年生） ・中学生との交流(トライやるウイーク、ワークキャンプ等)	・子育て広場(年48回実施) ・心理士による育児相談(月1回実施) ・児童館への出張保育(年2回) ・一時保育の受け入れ ・卒園児との交流会「集まれ！どうほうチルドレン」の実施 ・「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会」の実施 ・小学校との交流「一年生になりたいもん」	・昨年度に引き続き、卒園児、中学生、地域の高齢者、5歳児と小学校1年生の交流会を行い、様々な年代の方と関わる事が出来た。 ・一時保育の問い合わせが増えているが、0歳児の希望者が多く、受け入れが難しい状況が続いた。育休を取得していた職員が復帰した10月以降に一時保育の受け入れを再開したため、令和5年度より、受け入れ人数が減っている。	・5歳児と小学校1年生との交流会を行うだけでなく、小学校教員と園職員が集まり、意見交換会を行うことが出来た。意見交換会で話した内容を令和7年度に実施できるよう、密に小学校との連携を取るようにしたい。 ・園庭開放の回数を増やすが、来園者があまり増えていない。電話での予約に躊躇する方もいるため、SNSでも呼びかけを行い、メッセージ機能で申し込みができるよう改善して、来園者を増やしていきたい。
人材育成	・人材育成に努め、働きやすい職場を目指す。	・主幹保育教諭と各担当リーダーが連携を取り、丁寧に指導する ・積極的な実習の受入れと丁寧な指導で採用につなげる ・ＳＮＳを活用した情報発信 ・児童館・小規模等への募集掲示 ・業務内容、有給取得状況、事務作業を見える化し、協力できる体制作りを行う ・行動計画、就業規則の周知	・有給休暇取得率アップ(84%) ・幼児リーダーと乳児リーダーを中心に職員配置を采配し、事務時間を確保 ・SNSを通して保育の様子を発信する ・実習の受け入れからアルバイトや採用に繋げる	・幼児リーダーと乳児リーダーが連携を取りながら職員配置を考えることで、平日にも事務作業を行う機会が増えた。 ・年度初めに有給休暇取得計画を立てることで、経験年数に関わらず、積極的に有給休暇を取得することが出来た。	・実習から採用に繋げることが難しかったが、学生アルバイトの申し込みがあり、一緒に働き始めている。丁寧に関り、保育の楽しさを伝えることで、今後の採用に繋げていきたい。 ・令和7年度は１～４年目の職員が中心となるため、主幹保育教諭も現場で保育の様子を見守り、丁寧に指導できる体制を整える。

幼保連携型認定こども園
同朋保育園